

本書は、1915年（大正4）に編纂された「奈良県風俗誌」に取められた出産・育児に関わる記述の翻刻と、それに関する研究論文とで構成されている。天理大学で教えている編者の安井さんは、本書冒頭で『奈良県風俗誌』が対象としたのは近代の奈良県であるが、この資料は、単に一地域の記述に留まらず、近代に人々がいかにして子どもを産み育てていたのかを示す、豊かで多様な素材と言えらる。』と述べている。

本書「研究編」に取められている論文によれば、「奈良県風俗誌」は奈良県教育会が行った大規模な聞き書き調査の集大成である。これは大正天皇即位大礼記念事業として企画され、奈良県全域で、日常生活に関する1,200の質問について一斉に調査されたもので、39の大項目にわたって行われている。その目的としては、「世界の交通が発達し、各種の風俗が互いに影響し合うことは今後も見られるだろうが、その分量も明治時代ほど多大ではないだろう。それゆえ、今のうちに『我が風俗』のどれほどが本来のまま、どれほどが変化したのか、また西洋から入ってきたものなのかを調べておくことは、『我が国ノ後ノ鏡』として必要だ」（8頁）というものであったという。

明治維新以後、日本の社会は否応無く多大な変化をし、それまでの社会的慣習も非常な変化をしてきた。明治という時代が終わって、その変化の度合いがどれほどのものであったのかを、直接人々に聞いたということであろう。個人的には、明治政府が力を注いだことの一つである女子教育の推進が、社会や女性の生き方にどれほどの、あるいは、どのような変化をもたらしたのか、また、出産が女の大役であるのは変わらないことではあるが、その受けとめられかたがどうなったかを本書を通して知れるかもしれないと読ませていただいた。

たとえば、第3章「近代と子どもの育児」の第3節で「誰が躰を行ったのか？」が取り上げられている。全般的に明治になって欧米の女子教育観からの影響を受け、教育する母への関心が高まり、また、国家の子どもという視点の導入と近代的学校教育の開始が、教育における学校教育の比重が増し、「言説上でのことであるが、家族における教育の担い手が父親から母親へと転換していく」状況がおこり、それは、日露戦争後、とりわけ第一次世界大戦後の「新中間層」の家族（俸給生活者としての夫と家事・育児に専念する家族）によって現実化したという小山静子さんの研究の成果を紹介しつつ、「（奈良市）風俗誌」では、「躰は『大抵母親之ニ当ル』とあり、当時の奈良市では主に『母親』が躰をするのみなされていたことがわかる。そして『と、子供ト作法』にも、『作法ハ其々家庭ニヨリテ異レドモ、其家庭ニ適スル様、主トシテ母親之ヲ指導ス』とあり、躰の作法は家庭によって異なっているものの、主に母親が当たっていたことが重ねて記されている。」（163頁）と指摘している。

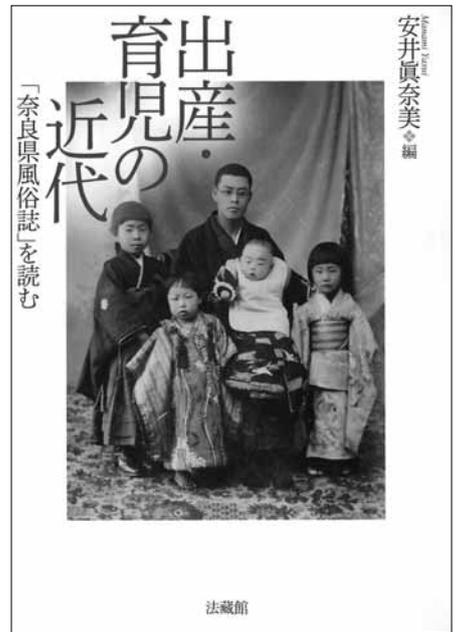
奈良県のその他の地域では、「一、母親 二、祖母」「父母 祖母」や姉など、複数の者を挙げている風俗誌が75のうち41にみられ、単数者回答は34（「母」26、「主婦」6、「祖父母」2）だったという。安井さんは、「このうち、『主婦』という近代の造語が、『奈良県風俗誌』に用いられていることは注目される。このよ

うな回答からは、家庭内において子どもの躰は母親が行うという規範が、奈良市のような都市部だけではなく、村落部においても意識されるようになっていたことが読み取れる。」（164頁）と記している。

その他の研究論文もそれぞれに大変興味深く、示唆に富み、大変面白い。是非お読み下さい。

さて、本書はこのような研究編と資料編（翻刻）で構成され、主な用語についてはその解説が資料編の後に付いている。資料編の具体的な内容は、読み比べてみると楽しく、参考になる。

著者の斎藤純、飯島吉晴両氏は安井さんの同僚、安井さんの受講生だった柿本さんは翻刻も手早い、現在大学院でさらなる研究に励んでいる。本書の目次は次のようになっている。



研究編

- 第1章 近代の暮らしを知る資料「奈良県風俗誌」
  - 第1節 「奈良県風俗誌」の成立と特徴（安井眞奈美）
  - 第2節 「風俗誌」前史—奈良県明治期「村誌」の風俗の記載をめぐる（斎藤純）
  - 第3節 「奈良県風俗誌」と出産・育児習俗の研究（飯島吉晴）
- コラム①子どもの遊びの記録と研究（飯島吉晴）
- 第2章 近代の出産習俗
  - 第1節 墮胎、避妊と近代産婆の登場（安井眞奈美）
  - 第2節 変わりゆく出産習俗と近代産婆（安井眞奈美）
  - 第3節 産育と呪法—便所・性の逆転の問題を中心に（飯島吉晴）
- コラム②奈良にゆかりの婦人薬・子安神（飯島吉晴）
- 第3章 近代と子どもの育児
  - 第1節 奈良県教育会の子どもへの関心（安井眞奈美）
  - 第2節 「奈良県風俗誌」にみる子どもの名づけ（柿本雅美）
  - 第3節 「奈良県風俗誌」に描かれた育児と躰（安井眞奈美）
- コラム③子どもの衣服と模様（飯島吉晴）

資料編

- 凡例 出産に関する質問項目一覧  
「奈良県風俗誌」書名一覧
- 翻刻 出産 79篇
- 翻刻 子供并ニ育児 1篇